

ラッシュアワー 3

2007(平成19)年8月7日鑑賞〈東宝東和試写室〉

★★★



監督=ブレット・ラトナー/出演=ジャッキー・チェン/クリス・タッカー/真田広之/マックス・フォン・シドー/ツイー・マ/張静初/ノエミ・ルノワール/イヴァン・アタル/ロマン・ポランスキー/工藤夕貴 (東宝東和配給/2007年アメリカ映画/100分)

第2章

男臭さ満開!

……ジャッキー・チェン最大のヒットシリーズ第3弾の舞台はパリ。リーとカーターの刑事コンビは不変だが、今回は第3の主役として何と真田広之が登場し、エッフェル塔で大バトルを……。さらに、あの国際派女優工藤夕貴も登場するが、フランス美女や中国美女と対比すると、そのウエイトが小さいのが何とも残念……。ストーリー展開はほどほどに(?)、アクションと会話と美女の競演をタップリと楽しみたいもの。そして、最後はもちろんハッピーエンド……?

香港、ロサンゼルスからフランスへ

ハリウッドに進出した香港の大スターであるジャッキー・チェンは、『プロジェクトA』(84年)シリーズ、『ポリス・ストーリー 香港国際警察』(85年)シリーズを生み出したが、世界的に大ヒットしたシリーズは、何といても『ラッシュアワー』(98年)、『ラッシュアワー2』(01年)そして今回の『ラッシュアワー3』のシリーズ。

『バッドボーイズ』(95年)、『バッドボーイズ2 バッド』(03年)のシリーズは、マーカス(マーティン・ローレンス)とマイク(ウィル・スミス)の黒人刑事コンビが織りなすドタバタ劇だから多少騒々しすぎる面がある(?)が、『ラッシュアワー』シリーズはしゃべくりの黒人刑事カーター(クリス・タッカー)と寡黙(?)なりー捜査官(ジャッキー・チェン)のコンビだから、そのバランスが最高……? そんなところが、『ラッシュアワー』シリーズが世界的に大ヒットした秘訣かも……?

そんなわけで、シリーズは第1作の香港、第2作のロサンゼルスから次第にスケールアップし、第3作の舞台はパリ。その理由は、中国系の国際的な秘密結社と思われ

る「シャイシェン」の秘密に迫り、その実体を突き詰めるため。

さあ、パリを舞台として2人の刑事と今回新登場するさまざまなキャラクターたちは、いかなる謎解きと痛快アクションを……？

真田広之が第3の主役だが……

今やハリウッドスターとなった(?) 渡辺謙以上に、近時外国映画への出演が目ざましいのが真田広之。『PROMISE』(05年)、『上海の伯爵夫人』(06年)、『サンシャイン2057』(07年)に続く本作以外にも、公開予定作が次々と控えている。

『サンシャイン2057』はイカロス2号を率いる船長という役だったが、その実質的な位置づけはナンバー4か5といったところ(『シネマルーム14』347頁参照)……？しかし、『ラッシュアワー3』における真田広之演ずるケンジは、2人の主役に次ぐナンバー3の地位を確保しているうえ、リー捜査官が兄弟と思う気持の面ではカーター刑事よりも上……？なぜなら、カーター刑事は仕事上のコンビにすぎないが、ケンジは7歳の時から孤児院でリーと一緒に過ごしてきた実の兄弟以上の絆で結ばれているから……。もっとも、11歳の時警察官の元に養子にいったリーに対して、ストリート・チルドレンとなったケンジは当然のようにマフィアの一員になったらしく、その後音信不通になっていたのだが……。そんな2人の絆には、黒人でカラッとした性格(?)のカーターですら嫉妬心を燃やしたほど……？

もっとも残念ながら、今回真田広之演じるケンジは悪役。つまり、現在リーは警察官としてハン大使(ツイー・マ)の護衛の任務にあたっているのに対し、ケンジは国際的な秘密結社である中国系マフィアの有力なリーダーでありかつ実行犯として重大な任務を……。そんな第3の主役を真田広之は立派に演じているのだが、ブレット・ラトナー監督はそんな彼に対して何ともかわいそうな悪役にふさわしい末路を……。

もう1人の日本人をどう評価……？

この映画には真田広之の他にもう1人、日本人女優の工藤夕貴がナイフ使いの暗殺レディ、ジャスミン役で登場するので、それにも注目！このキャスティングは、英語を自由にしゃべれるうえ、アクションもこなせる日本人女優が少ないという事情を反映したものだだろうが、例えば『ドリーム・クルーズ』(07年)で流暢に英語をしゃべっていたのが、帰国子女である木村佳乃。彼女は三井住友銀行のテレビCMで、

太ももを露にした女忍者のようなアクション(?)をこなしていたから、ひょっとしてアクションも大丈夫……?

それはともかく、工藤夕貴が出演するからにはそれなりの役のはずと私は思っていたのだが、これが出番も限定的であるうえ、ほとんどセリフのない単なるアクション要員としての役割だけ。これにはちょっとがっかりだが、ハリウッドにおける位置づけとしては、真田広之ですらあの程度なのだから、工藤夕貴では仕方なし……? そう慰めながらも、何となく納得できない気分だが……。

謎の美女はフランスのムーラン・ルージュに……

『ラッシュアワー3』は、ジャッキー・チェン映画の中でもとりわけ国際色豊かになっているが、その象徴となるのが謎のフランス人美女ジャンビエーブ(ノエミ・ルノワール)。彼女はパリで有名なムーラン・ルージュの踊り子だが、彼女が「シャイシェン」の秘密を握っているキーウーマンらしい……?

「シャイシェン」をめぐる謎解きは映画を観る中で楽しんでいただくことにして、私の評論では触れないが、このフランス美女の美しさには大注目! もっとも、映画前半の謎めいた雰囲気とその妖艶なダンスぶりにはゾッコンだった私だが、謎解きが進むにつれて、映画の後半その魅力が減退していったのは一体なぜ……?

あの中国人女優は……?

中国人の名前は覚えにくいですが、プレスシートに『孔雀 我が家の風景』(05年)と『セブンソード』(05年)に出演していると書いてあるのを読んで思い出したのが、ハン大使の娘であるソー・ヤング役を演ずる張静初^{チャン・チンチュウ}。彼女はこの2つの作品でかなり印象に残る演技を見せていたが、中国ではポスト“章子怡”^{チャン・ツイイー}の呼び声が高い期待の若手美人女優。

そんな彼女がこの映画に出演しているとわかって期待したのだが、残念ながらこの映画は男性アクション映画だから、女は……? 『ラッシュアワー3』は話の展開がスピーディーなこともあって、上映時間が100分と程よい長さなのだが、張静初^{チャン・チンチュウ}の出番は少なく、その良さがほとんど発揮されていないのはちょっと残念……。

ここにも面白い米仏対立が……

ブレット・ラトナー監督が民主・共和どちらの政党を支持しているのか知らないが、仮に共和党支持者だとしたらイラク戦争をめぐるアメリカに対するフランスの非協力的な態度には業を煮やしているはず……。

そんな思いが、第1にアメリカからパリに渡った2人の刑事に対するレビ警視（ロマン・ポランスキー）による拘束という形で登場する……？ 拳銃を取りあげられたうえ、入国審査のためお尻の穴まで検査されることになろうとは……？

第2にそれ以上に面白いのが、リーとカーターの2人を乗せたフランス人のタクシー運転手ジョージ（イヴァン・アタル）。彼は最初黒人のカーターを見て、「俺のタクシーにはアメリカ人は乗せない」ときたからビックリ。また仕方なく乗せた後の彼のアメリカ批判やブッシュ批判（？）も、少なくともフランス人の一定の層の声を代弁していることはまちがいない。ところが、そんなジョージもアメリカ式のカーチェイスに巻き込まれてそのスリルを体験するや、突然ヒーロー願望にサマ変わりしたからビックリ。もっとも、アメリカのヒーローたちを匿うとして、リーとカーターそして謎の美女ジャンビエーブを自分の家庭にまで連れて来たのはまずかった。奥さんからコテンパンに絞られた彼は、その後もあくまでヒーロー願望でいくのか、それともまた典型的なフランス人に舞い戻るのか……？

バスケットボール選手の演技力は……？

何を隠そう、私は格闘技が大好きで、テレビで放映される K - 1 や RRIDE の試合はすべてビデオに録って見ている。K - 1 では身長218cmの韓国の巨人チェ・ホンマンが圧倒的な強さを見せているが、『ラッシュアワー3』にはカーター刑事役のクリス・タッカーが子供に見えてしまうような巨人が登場する。秘密結社の一員である巨人を演じるのは孫^{ソン・ミンミン}明明。

リーと共に彼によってトコトン痛めつけられたカーターは、「一体どんな薬を飲ませたんだ」と毒づいているが、その真相はともかく、彼は実在の人物。すなわち、彼はアメリカのバスケットボール選手の中で最長身の中国人選手なのだ。そういえば、そんなニュースを見たことがあったナと思う人は多いはず。そんなプロのバスケットボール選手を映画に出演させるのも一興だが、問題はその演技力。さて、彼はボール

を扱わない仕事でもちゃんと出演料をもらえるような演技力を見せてくれるだろうか……？

見モノは、ザ・バトル・オン・ザ・エッフェル塔

古くは『柳生一族の陰謀』（78年）で、近時は『たそがれ清兵衛』（02年）や『ラスト・サムライ』（03年）で見事な刀さばきと殺陣を見せた真田広之が、パリを舞台としたこの映画では、エッフェル塔の上で、かつての「兄弟」リーと刀を中心とした日本風の殺陣とジャッキー・チェン映画らしく何でもありの大バトルを展開している。もちろん、現実にはエッフェル塔の上で刀を振りまわしたわけではないが、プレスシートにあるプロダクションノートによれば、その撮影はかなり大変だった様子……。VFX 技術の進歩もここまで、という楽しいザ・バトル・オン・ザ・エッフェル塔をタップリと……。

ちなみに、エッフェル塔上でのバトルがここまで絵になるのなら、『ラッシュアワー』シリーズの次のバトルは、是非東京タワーの上で……？

2007(平成19)年 8月 8日 記

ミニコラム

NOVA は一体どうなるの？

『ラッシュアワー3』では真田広之と工藤夕貴が達者な英語を披露している。この2人は「駅前留学」で有名なNOVAで英語を学んだわけではないだろうが、日本人が開かれた国際社会の中で生きていくためには英語は不可欠の素養。その意味でNOVAの経営破綻騒動は残念だ。現在会社更生手続に入っているNOVAは私と同期の東島敏明弁護士が保全管理人として解決

の方向性を模索しジー・エデュケーションへの譲渡を決定したが、受講生たちが先払いした授業料の返還は難しい状況らしい。法的処理は裁判所に委ねざるをえないが、教員の確保とやる気そして生徒たちの学ぶ意欲の維持が何より肝要。理想的な解決に向けて東島弁護士の辣腕に期待したいものだ。

2007（平成19）年11月22日